

京都花山天文台の将来を考える会 令和2年度総会

日時：令和2年11月8日（日）13時30分～13時50分

場所：京都大学理学部4号館（遠隔会議方式）

1. 令和元年度事業報告

資料1 事業報告書

補足説明

2. 令和2年度事業計画（変更後）

資料1 事業計画の変更

報告1 花山天文台付近バス停新設の件

令和元年度 事業報告

(平成31年(2019年)4月1日 ～ 令和2年(2020年)3月31日)

I. 概況

当法人は、任意団体「京都花山天文台の将来を考える会」を前身に、株式会社タダノ（代表取締役社長多田野宏一）を設立者として、平成31年4月1日に「一般財団法人花山宇宙文化財団」として設立された。当法人の目的は、宇宙と自然に関する学術、研究、教育及び生涯教育の普及に寄与することとし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 天文台、望遠鏡及びその歴史的資料に関する研究、開発及び技術情報の提供
- (2) 研究会、講演会、教育研修、講座、セミナー、各種イベント等当法人の目的に資する企画の運営、開催及び講師派遣
- (3) ベンチャー企業に対する技術情報等の提供及び各種支援
- (4) インキュベーション施設、四次元宇宙シアター、プラネタリウム及び各種 研究施設の企画、賃貸、管理及び運営
- (5) 出版物、印刷物及びウェブサイトの企画、制作、発行及び販売
- (6) 各種情報の収集、分析、処理及び提供
- (7) 宿泊施設、駐車施設及び飲食店の企画、管理及び運営
- (8) 物品販売業
- (9) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

まずは、設立初年度として、将来を考える会の事業と財産を引き継ぐとともに、法人としての基盤を整えるべく、体制の構築や諸規則の整備等を推進した。

具体的事業については、講演会として、財団設立記念講演会を6月2日に花山天文台90周年にあわせて開催、毎年好評の金曜天文講話をキャンパスプラザ京都で16回開催、見学会・観望会として、恒例の花山天文台基金観望会を7回・花山天文台特別公開を10月26日に開催、前年度の火星大観望会に続いて土星大観望会を岡崎公園で8月3日、4日に開催、刊行物として、会報2冊に加え、京都新聞題字下コラムに1年間の寄稿、物販として、各種イベントの機会に直接販売するとともに、委託販売も継続した。

また、例年花山天文台で実施している音楽家喜多郎氏による花山天文台応援コンサートは、今年度は花山天文台創立90周年記念音楽映像祭として11月24日に京都大学時計台百年記念ホールにて開催され、天文台グッズの販売などで協力した。さらに、イギリスのロックバンド「クイーン」のギタリストで天文学者でもあるブライアン・メイさんが花山天文台を1月27日に訪れ、応援メッセージを記していただくなど、花山天文台を支援する輪が醸成されてきている。

II. 実施事業の概要

1. 講演会

1) 財団設立記念講演会（花山天文台 90 周年事業と同時開催）

開催日 令和元年 6 月 2 日 参加者 152 名

会場 京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール

講演テーマ・講演者

- ① 「花山天文台の歴史と将来」 柴田一成（京都大学教授）
- ② 「花山天文台と京都盆地の自然」 尾池和夫（京都造形芸術大学学長）
- ③ 「株式会社タダノと花山天文台」 多田野宏一（㈱タダノ代表取締役社長）

2) 金曜天文講話

会場 キャンパスプラザ京都

	開催日	講演テーマ	講師	参加者
第 1 回	5 月 10 日	太陽フレアと宇宙天気予報	柴田一成	72 名
第 2 回	5 月 24 日	ブラックホール初撮影の衝撃	嶺重慎	103 名
第 3 回	6 月 7 日	太陽系探査の過去・現在・未来	佐々木貴教	83 名
第 4 回	6 月 21 日	宇宙の果ての銀河を探す	太田耕司	74 名
第 5 回	7 月 12 日	超新星から迫る恒星最期の 100 年間	前田啓一	86 名
第 6 回	7 月 26 日	岡山 3.8m せいめい望遠鏡	長田哲也	64 名
第 7 回	8 月 9 日	X線天文学者が挑む雷の謎	榎戸輝揚	67 名
第 8 回	8 月 23 日	星の最期とその後	川中宣太	71 名
第 9 回	10 月 25 日	宇宙人類学入門	磯部洋明	73 名
第 10 回	11 月 8 日	アインシュタイン重力への挑戦状	田中貴浩	82 名
第 11 回	11 月 22 日	月の起源を解き明かす	佐々木貴教	81 名
第 12 回	12 月 20 日	宇宙最初の星とブラックホール	細川隆史	102 名
第 13 回	12 月 27 日	太陽型星のスーパーフレア	野上大作	70 名
第 14 回	1 月 10 日	超新星を用いて宇宙を測る	前田啓一	80 名
第 15 回	1 月 24 日	ブラックホールの人口調査	川中宣太	99 名
第 16 回	2 月 14 日	宇宙人はいるか	柴田一成	125 名

2. 天文台見学・観望会

1) 基金観望会 会場 花山天文台

通算回数	開催日	観望対象	参加者
第 28 回	4 月 12 日	月	11 名

第29回	5月13日	月	7名
第30回	6月11日	月	7名
第31回	7月10日	月	9名
第32回	8月8日	土星・月	29名
第33回	9月9日	土星・月	17名
第34回	10月8日	土星・月	17名

2) 土星大観望会

開催日 8月3日、4日

参加者 約600名

会場 岡崎公園

3) 花山天文台特別公開

開催日 10月26日

参加者 74名

会場 花山天文台

3. 刊行物

1) 会報

第4号

発行日 平成31年4月15日

部数 1500部

第5号

発行日 令和元年10月15日

部数 1000部

2) 京都新聞・連載コラムへの寄稿（京都花山天文台から「星を見つめて」）

コラム記事（日刊）

本年度325回掲載（5月1日～翌年4月30日）

拡大版記事（月2回）

本年度22回掲載（5月～翌年4月）

4. 物販

1) 直接販売

下記イベントにて花山天文台グッズを販売。

① 金曜天文講話 第1回～第16回

② 基金観望会 第28回～第34回

③ 花山天文台設立90周年及び財団設立記念式典懇親会

開催日 6月2日

会場 カフェ・カンフォーラ

④ 参与会

開催日 7月7日

会場 花山天文台

⑤ 土星大観望会

開催日 8月3日、4日 会場 岡崎公園

⑥ 花山天文台特別公開

開催日 10月26日 会場 花山天文台

⑦ 音楽映像祭

開催日 11月24日 会場 京都大学百周年時計台記念館

2) 委託販売

下記法人と委託販売契約を結び販売を継続中。

- ① 学校法人京都精華大学・京都国際マンガミュージアム
- ② (株) アクティブケイ・京都大学博物館ショップ “ミュゼップ”

Ⅲ. 評議員および役員等に関する事項（令和2年3月31日現在）

評議員・理事・監事・事務局長

役職	氏名	肩書	就任年月日
評議員	稲盛豊実	公益財団法人 稲盛財団 前 専務理事	平成31年4月1日
評議員	佐藤文隆	京都大学 名誉教授	平成31年4月1日
評議員(設立者)	多田野宏一	株式会社 タダノ 代表取締役社長	平成31年4月1日
評議員	長田哲也	京都大学 教授	平成31年4月1日
評議員	藤原洋	株式会社 ブロードバンド タワー 代表取締役会長兼 社長 CEO	平成31年4月1日
評議員	松本紘	国立研究開発法人 理化学研究所 理事長、 公益財団法人 国際高等研究所 所長、 京都大学 前総長	平成31年4月1日
評議員	村山昇作	株式会社 iPS ポータル 代表取締役社長、 一般社団法人 天体望遠鏡 博物館 代表理事	平成31年4月1日

評議員	冷泉為人	公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫 理事長、 京都美術工芸大学 学長	平成 31 年 4 月 1 日
理事長(代表理事)	尾池和夫	京都造形芸術大学 学長、 京都大学 元総長	平成 31 年 4 月 1 日
常務理事(業務執行理事)	西亨	株式会社 阪南コーポレーション 執行役員副社長	平成 31 年 4 月 1 日
理事	位高光司	株式会社 KI 経営研究所 代表取締役、 京都経営者協会 元会長、 日新電機株式会社 元会長	平成 31 年 4 月 1 日
理事	岡村勝	株式会社 ヒーロー 代表取締役	平成 31 年 4 月 1 日
理事	荻野司	合同会社 ゼロワン研究所 代表、京都大学 特任教授	平成 31 年 4 月 1 日
理事	北川聡一	株式会社 文化工学研究所 専務取締役、 京都大学 非常勤講師	平成 31 年 4 月 1 日
理事	柴田一成	京都大学 教授	平成 31 年 4 月 1 日
理事	野上大作	京都大学 准教授	平成 31 年 4 月 1 日
理事	松田和典	M・G マーケティング研究所 所長	平成 31 年 4 月 1 日
監事	向井苑生	京都情報大学院大学 教授	令和元年 11 月 25 日
監事	吉田晴夫	住友銀行 元四国法人部次長	平成 31 年 4 月 1 日
事務局長	石井貴子	京都大学研究員	平成 31 年 4 月 1 日

参与

役職	氏名	肩書	就任年月日
特別参与	長尾真	京都大学 元総長	平成 31 年 4 月 1 日
参与	大野照文	三重県立博物館館長、 京都大学名誉教授	平成 31 年 4 月 1 日
参与	岡崎甚幸	武庫川女子大学教授、 京都大学名誉教授	平成 31 年 4 月 1 日

参与	小崎哲也	京都造形芸術大学大学院 客員研究員	平成 31 年 4 月 1 日
参与	喜多郎	音楽家	平成 31 年 4 月 1 日
参与	小山勝二	京都大学名誉教授	平成 31 年 4 月 1 日
参与	笹岡隆甫	未生流笹岡家元	平成 31 年 4 月 1 日
参与	鈴鹿可奈子	株式会社 聖護院八ッ橋総 本店 専務取締役	平成 31 年 4 月 1 日
参与	竹宮恵子	漫画家、 元京都精華大学学長	平成 31 年 4 月 1 日
参与	田原博明	京都府人事委員会委員長、 元京都府教育委員会教育長	平成 31 年 4 月 1 日
参与	津田真	株式会社丹青社 チーフプ ランニングディレクター	平成 31 年 4 月 1 日
参与	西靖雄	弁護士(花山宇宙文化財団 顧問弁護士)	令和 2 年 2 月 25 日
参与	長谷川和子	株式会社 ケアソシエツ代表	平成 31 年 4 月 1 日
参与	長谷川靖子	京都コンピュータ学院 学院長	平成 31 年 4 月 1 日
参与	丸川修	京都府立図書館館長	平成 31 年 4 月 1 日
参与	山崎直子	宇宙飛行士	平成 31 年 4 月 1 日
参与	わたなべ邦子	京都府議会議員	平成 31 年 4 月 1 日

IV. 職員に関する事項（令和 2 年 3 月 31 日現在）

事務局長 1 名、（雇用関係にある）事務局員 4 名。

V. 会議・会合

1. 評議員会・理事会

1) 臨時理事会

開催日 平成 31 年 4 月 17 日（全員同意による決議の省略（書面によるみなし決議））

第 1 号議案 事務局長の選任について

第 2 号議案 平成 31 年度事業計画・予算について

第 3 号議案 諸規則の制定について

第 4 号議案 評議員会の招集について

2) 令和元年度第1回理事会

開催日 令和元年6月2日 出席理事8名 監事2名

会場 京都大学国際科学イノベーション棟5階会議室5a

第1号議案 令和元年度事業計画および予算の承認を求める件

報告1 財団設立等に関する記者発表

報告2 京都新聞題字下コラム記事の掲載および謝金の取扱い

報告3 京都花山天文台の将来を考える会総会報告

報告4 職務執行状況の報告

3) 令和元年度第1回評議員会

開催日 令和元年6月2日 出席評議員5名 監事2名

会場 京都大学国際科学イノベーション棟5階会議室5a

第1号議案 貸借対照表、正味財産増減計算書、および附属明細書の承認を求める件

第2号議案 役員の報酬及び職務を行いために要する費用の支払いに関する定めの承認を
求める件

報告1 臨時理事会報告

報告2 第1回定例理事会報告

4) 第2回臨時理事会

開催日 令和元年11月12日 (全員同意による決議の省略 (書面によるみなし決議))

第1号議案 令和元年度臨時評議員会の招集の決定

5) 臨時評議員会

開催日 令和元年11月25日 (全員同意による決議の省略 (書面によるみなし決議))

第1号議案 監事逝去に伴う補欠選任の件

6) 令和元年度第2回理事会

開催日 令和元年12月10日 出席理事8名 監事2名

会場 京都大学理学部4号館5階会議室

報告1 令和元年度事業報告 (中間報告)

報告2 令和元年度正味財産増減計算書 (中間報告)

報告3 職務執行状況の報告

7) 令和元年度第3回理事会

開催日 令和2年3月24日 出席理事8名 監事1名

会 場 京都大学理学部4号館5階会議室

第1号議案 令和2年度事業計画・予算について承認を求める件

第2号議案 主たる事務所の移転について承認を求める件

報告1 職務執行状況の報告

2. 京都花山天文台の将来を考える会・総会

開催日 令和元年6月2日 出席会員 約50名

会 場 京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール

第1号議案 平成30年度活動実績について

第2号議案 平成30年度会計決算について

3. 花山天文台設立90周年及び財団設立記念式典・懇親会

開催日 令和元年6月2日

1) 記念式典 参加者 152名

会 場 京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール

次 第 司会 浅井歩 京都大学理学研究科附属天文台准教授

挨拶 一本潔 京都大学理学研究科附属天文台台長

祝辞 山極壽一 京都大学総長

祝辞 平島崇男 京都大学理学研究科長

祝辞 山下晃正 京都府副知事

祝辞 村上圭子 京都市副市長

祝辞 渡部潤一 国立天文台副台長

2) 懇親会 参加者 90名

会 場 京都大学内カフェ・カンフォーラ

次 第 司会 野上大作 京都大学宇宙物理学教室准教授

開会の挨拶 尾池和夫 花山宇宙文化財団理事長

祝辞 山田義弘 東亜天文学会会長

祝辞 縣 秀彦 国立天文台天文情報センター准教授

乾杯 久保田諄 大阪経済大学名誉教授

祝辞 西村昌能 認定NPO法人花山星空ネットワーク理事長

祝辞 長谷川靖子 京都コンピュータ学院学院長

閉会の挨拶 柴田一成 京都大学理学研究科附属天文台教授

4. 令和元年度参与会（太陽望遠鏡視察、懇談会含む）

開催日 令和元年7月7日 出席参与 4名 理事 5名

会 場 京都大学花山天文台

報告1 令和元年度事業計画・予算

報告2 京都府議会本会議一般質問「花山天文台の活用について」

5. 会員懇親会

開催日 令和元年11月24日 参加者63名

会 場 京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールⅢ

Ⅵ. 会員に関する状況（令和2年2月29日現在）

賛助会員14名、一般会員203名。

Ⅶ. その他報告事項

1. 登記事項

1) 登記記録に関する事項 設立 平成31年4月1日登記

2) 役員に関する事項 監事 平井伸博 令和1年9月5日死亡、令和1年10月3日登記

3) 役員に関する事項 監事 向井苑生 令和1年11月25日就任、令和1年12月19日
登記

4) 主たる事務所 京都市左京区吉田河原町1-4番地公益財団法人京都技術科学センター
内B22号室 令和2年4月1日移転、令和2年4月1日登記

(附属明細書の作成について)

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月
一般財団法人 花山宇宙文化財団

任意団体「京都花山天文台の将来を考える会」の事業と財産 349 万円を引継ぎ、設立者(多田野宏一, (株)タダノ代表取締役社長)の寄付金(基本財産 300 万円を含む 1000 万円)を受け概ね順調に推移し、正味財産期末残高は 673 万円となった。

1. 財団設立記念式典・講演会・懇親会

6月2日に国際科学イノベーション棟にて花山天文台設立90周年式典と合わせて開催し、152名の参加を得た。詳細は事業報告2,8頁。

2. 金曜天文講話

2017年4月にスタートした一般市民向け金曜天文講話(ファラデーの金曜講話にちなんで)、当初は1年で終了という計画であったが、参加者から同じ内容であってもぜひ続けて欲しいという強い要望を受け、2018/2019年度ともに年に16回開催した。当初50名に満たない参加者数であったが、常に70名、時には100名を超える参加者となってきている。参加者の60%は60歳以上であるが、小中高生も7%存在している。質疑も活発で、予定時間を頻繁に超え、財団のメイン事業として定着してきている。2020年度も同様の計画をしていたが、新型コロナの感染拡大の影響により、京都大学での対面授業禁止期間中はキャンパスプラザでの開催を見送っている。zoomによるオンラインでの開催を試行することを検討している。

3. 天文台観望会

京大天文台基金寄付者を対象に「基金観望会」として平日夜間に実施していたが、2019年度から一般の方にも有料で参加いただけるよう対象を広げた。一定数の有料参加があり、天文台ファンの拡大に寄与できている。2020年度は、天文台を土日昼間に毎週一般公開し、そのうち1日を「夜の星空観望会」として計画している。しかしながら、新型コロナ感染拡大の影響により開始時期は未定である。

4. 土星大観望会

2018年度は火星大接近を受けて火星大観望会を京都大学吉田南グラウンドで開催したが、2019年度は花山天文台90周年記念土星大観望会として、8月2,3日に京都市の協力を得て岡崎公園で開催した。NPO花山星空ネットワークや京都大学天文同好会の方の協力も得て、約600名の参加者に、土星・木星・月などを見ていただいた。500円の参加料を頂いたにもかかわらず、10数台の望遠鏡に列ができるほどの盛況となった。

5. 喜多郎さんコンサート

例年花山天文台で開催していた喜多郎さんによる応援コンサートを、2019年度は時計台百周年記念ホールで花山天文台創立90周年記念音楽映像祭として11月24日に開催した。第1部では、喜多郎さんの他、岡野弘幹さん、祝丸さんによるミニコンサート、「古事記と宇宙」上映に合わせた喜多郎さん鹿嶋静さんのライブ演奏があった。第2部では、講演予定であった松本零士さんが急病により欠席となったが、メッセージを披露した後、大野照文さん(当財団参与、三重県立博物館館長)のコーディネートのもとトークセッションが行われ、松本零士さん原作の映画「1000年女王」の主題歌「星空のエンジェルクイーン」(喜多郎さん作曲)を高橋洋子さんが飛び入り出演して歌唱するというサプライズ演出もあった。最後に一本潔天文台長から花山天文台を引き続き応援していただきたい旨の挨拶がありお開きとなった。

6. マスコミへの掲出 (主なもの)

・京都新聞題字下コラムへの連載掲載

2019年5月1日から2020年4月30日まで、休刊日を除く毎日に一面題字下に「星を見つめて」として掲載、月に2回拡大版を掲載、豊富な執筆者による興味深い内容に、花山天文台の知名度アップに大いに寄与した。右は、最終回の切り抜き。2020年度は、書籍化を検討中である。

最終日の記事

・NHKニュース京都(5月16日)や、KBS京都(11月15日)において生番組にて花山天文台取材いただいた。
・特に1月27日に、イギリスのロックバンド「クイーン」のギタリストで天文学者であるブライアン・メイさんが花山天文台を訪れ、応援メッセージをいただいたことは、NHKニュース全国版に放映され、花山天文台の知名度が全国に広がった。現在、ブライアン・メイさんは、自宅のリビングルームで撮影したパフォーマンス映像シリーズ「Micro Concerto」を公開している。<https://www.youtube.com/watch?v=oOPBK2xHtqQ>など。

7. 決算関係

「京都花山天文台の将来を考える会」の事業を踏襲して予算化した。会計整理を一般財団法人として見直し若干の項目移動はあったが、概ね予算どおり推移した。期末正味財産は昨年承認いただいた349万円(期首正味財産)に比べて324万円の増加となった(基本財産含む)。基本財産が300万円と、財団法人としての最小金額であるため、2020年度は収支を

星を見つめて
京大花山天文台から
4月30日

二十四節気は太陽の黄道上の位置を24等分した季節区分で、農作業で季節を知るために中国の戦国時代に生まれ、日本では江戸時代から広く使われてきました。中緯度の日本列島のめり

季語の国

はりのある季節感から季語が生まれ歳時記が発展しました。太陽系を観測する花山天文台を支援してくださっている多くの方々の代表として株式会社タダノ多田野宏一社長への一句です。〈巨大クレーン雲吊り上げて冬の月〉(尾池和夫) || おわり

改善して、基本財産を積み増しできるよう努力していきたい。

8. 法人運営

「京都花山天文台の将来を考える会」の発起人やWGメンバーを踏襲して財団評議員・役員・参与を構成した。残念なことに永年支援いただいた平井伸博監事が逝去された。

主たる事務所を京大花山天文台としていたが、京大理学部執行部の理解が得られなかった。そこで、公益財団法人京都技術科学センターの一室を賃貸することとし主たる事務所を移転登記した。

新型コロナウイルス感染拡大により事業に大きな変更が生じてくる。補正予算を検討するとともに、理事会・評議員会において遠隔会議で議決権行使できるよう、定款を変更することにした。「一部の理事（評議員）が遠隔地に所在する等の事情により、理事会（評議員会）開催場所に赴くことができない場合、電話会議等の形で各理事（評議員）の音声がお互いに即時に伝わり、適時的確な意見表明ができる場合には、この理事（評議員）は有効な議決権を行使できる。」

以上

令和2年度 事業計画の変更について

令和2年(2020年)4月1日～ 令和3年(2021年)3月31日

令和元年度第3回理事会(令和2年3月24日開催)において「令和2年度事業計画・正味財産増減計算書(予算)」が承認されたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための京都大学の感染対策に則り、令和2年度第1回理事会(令和2年5月26日書面によるみなし報告)報告「令和2年度事業計画の状況」のとおり、大きな変更を余儀なくされた。よって、令和2年度事業計画・正味財産増減(予算)を変更する。

I. 基本方針(変更なし)

財団の運営基盤を固まりましたが、更に事業を発展させると共に、将来的には地域住民や観光客の方々が自由に訪れて、天文・宇宙の世界に触れることができる花山天文台の実現を目指していきます。そのために次のような目標を設定し、実現を図っていきます。

短期的目標(1～3年)

- (1) 小中高校見学・実習を毎日受け入れ可能な体制を実現します。
- (2) 天体観望会や講演会、勉強会やワークショップ、芸術・文化系イベント。
- (3) 海外からを含む観光客を引きつける新たな魅力となります。
- (4) 上記を達成するため100人収容可能な講演室と資料室を建設します。

長期的目標(4～10年)

- (1) 宇宙科学館(天地人ミュージアム(案))の設置を目指します。
- (2) 花山天文台の文化とも融合できるような、先端的なものづくりをテーマにしたイノベーションセンター計画を考えています。
- (3) 星空観察会や野外コンサートなどの各種イベントが開催できる多目的広場の設置も考えています。

II. 事業実施状況及び今後の事業計画

1) 会議・講演会

- ① 定例の評議員会を開催した(6月19日書面によるみなし決議)。
- ② 定例の理事会を5,6月に開催した(5月26日書面によるみなし報告、6月8日書面によるみなし決議)。今後、10月29日、3月に開催する。
- ③ 臨時の評議員会・理事会を必要に応じて開催した(7月29日理事会、8月21日評議員会、遠隔地からの議決権行使できるよう定款を変更)。
- ④ 参与会を11月に開催する(11月8日予定)。
- ⑤ 講演会を「花山天文台の将来を考える会」総会に合わせて開催する(11月8日予定)。

2) 金曜天文講話

5月から来年2月まで、16回の開催をキャンパスプラザ京都にて計画していたが、前期は、第1回から第6回までは中止し、第7回、第8回をオンラインで開催した。また、オンライン開催実施のためのトライアルとして、会員限定の講演会を3回実施

した。後期は、10月23日、11月6日・20日、12月4日・18日、1月15日・29日、2月12日にオンラインで開催する。

3) 会報

京都花山天文台の将来を考える会の会報として、第6号を4月15日に、第7号を9月30日に発行した。

4) 花山天文台土日一般公開

5月から、土曜日と日曜日の昼に一般公開を始め、5～12月には月1回、土曜日の夜に星空観望会も従来の基金観望会として実施することとしていたが、上期はすべて中止した。11月から新型コロナ感染拡大防止対策をした上で人数限定にて実施する。

- ・土日公開 11月14日より公開開始予定。
- ・夜の星空観望会 11月21日、12月19日に実施予定。

5) 花山天文台応援野外コンサート

世界的な音楽家である喜多郎氏を招いて花山天文台応援野外コンサートを実施することとしていたが、開催を中止した。かわりにこれまでを振り返り将来へのメッセージとなる「花山天文台応援:喜多郎さんとふりかえる～宇宙と音楽の対話～」をオンラインで配信中である(10月3日から11月30日まで)。

6) 天文台グッズの販売

販売の機会は激減したが、花山天文台土日一般公開時にグッズの販売を継続する。

7) 京都新聞・連載コラムへの寄稿

昨年5月から継続している、京都新聞の連載コラム“星をみつめて”への寄稿は4月に終了した。書籍化の計画がすすんでおり、京都新聞出版センターより今年12月頃に発行予定である。

8) クラウドファンディング

花山天文台を天文・宇宙教育の拠点として次世代に残していくために、花山天文台支援のためのクラウドファンディングを7月28日から3ヶ月の予定でスタートしている。海外版についても準備を進めている。達成した金額により様々なプロジェクトを実施する。

9) 天文台関連イベント

オンライン宇宙落語会を11月22日に予定している。

10) バス停設置の検討(追加)

京阪バスの協力を得て東山ドライブウェイにバス停の設置を検討中である(報告1参照)。

以上